

描きつづける事

行動展会員

全道展会員

富田知子

第40回記念道彩展を迎えられました事、おめでとうございます。拝見していく中、年々いい作品が会場を埋め、出品者の意識の高さを感じています。

私は、油彩の作家なので、水彩のテクニックなどは、ずっと皆さんの方が上で、うまいなあと見入る作品も多々あります。いい作品を描くと言うことは、どう言う事なのでしょう。又、その為には、何をすれば良いのでしょうか？ 私達は天才ではありません。他の人より絵を描く事が好きで、いつの間にかこの世界にいた。私はそうでした。描きつづける事によって見えてくる自己表現、膨大なる色の中に私の色（この赤が私の赤！それが個性となる）を見つけ、デッサンを繰り返し、モチーフのフォルムを知り、私は何を描きたいのか、何を伝えたいのか、遠くに見えて来るそれを描きつづける事によって手繰り寄せ、又、描く事で手繰り寄せる、この繰り返しの中で「私の作品」が生まれる。それは、個なる作家の一步となるのではないのでしょうか。

描く事は、当たり前です。しかし、決して楽しい作業とは言えません。でも、描きつづければ向こうに新しい自分を発見する事が出来ると信じて。私も描くひとりとして、新しい自分を発見する為、繰り返し描いていこうと思っています。どうぞ、道彩展の皆さんも、個なる私を見つけていい作品を描いて下さい。楽しみにしております。

最後に、この私を水彩の皆さんに関わりを持たせて下さったのは、今は亡き、八木伸子先生でした。改めて多くの絵を描く方々に逢えました事にお礼を申し上げます。有り難うございました。

これからも、道彩展が長く、作家達の発表の場となります事を願っております。